

協議事項①【コンセプトについて】

これからの登別市立図書館がめざす方向性ですので、運営ビジョンである『登別市立図書館のめざすもの』を基本にするのが良いと考えます。5つの柱をベースに、図書館の基本的な役割に加え今後求められる姿を簡潔にまとめました。

下記に示すのはあくまでも一例ですので、『登別市立図書館のめざすもの』の理念が伝わる表現であれば良いと思います。

コンセプト案)

登別市立図書館のめざすもの

いつでも どこでも だれでも
身近に利用できる図書館

すべての市民に
「居場所」を提供します

一人ひとりの自己実現
を助ける図書館

市民に「出番」を
創出・提供します

登録を保存し「地域づくり」
に積極体に関わります

インクルーシブな交流拠点

- 子ども、高齢者、障がい者、だれもが利用しやすいよう、施設・設備・サービスの改善に努めます。
- 市民が「豊かな時間」を過ごせるよう、多種多様な事業を持続的に展開します。
- 市民が集い出会える、社会的交流を支援します。

学びと成長を育む創造拠点

- 地域の課題や市民の生活課題の解決を、情報提供によって支援します。
- 一人ひとりの自己実現を助ける図書館を目指します。
- 市民が図書館活動に能動的に関われる環境をつくります。

地域文化のアーカイブ拠点

- 登録を未来に残す図書館をめざします。
- 郷土資料のデジタル化やデータベースの作成を進めます。
- 郷土の歴史や文化について、多様な市民が集い共同で学べる場を創出・提供します。

協議事項②【機能とエリアについて】

登別市立図書館が以前に作成した『登別市立図書館が考える新図書館デザインプラン』と『「登別市立図書館のめざすもの」に基づく機能(詳細例)の現図書館での実現状況』に即して、最低限必要なスペースと機能を抽出してまとめました。市民アンケートや整備検討委員会で要望の多かった、親子・友人同士で会話が可能なエリアと読書・学習に集中できる静かなエリアのすみ分け、ユニバーサルデザインの重視、地域資料の保全是優先的に考慮する必要があるかもしれません。個人的には、レファレンスカウンターは必須だと考えます。

エリア	機能	おもな活動	留意点
① 一般閲覧スペース	一般開架書架		・低層と高層をバランス良く配置
	貸出・返却カウンター	貸出、返却、予約、案内	・車いす利用者に配慮した高さ
	新聞・雑誌架	最新号やバックナンバーの閲覧	・利用者同士の干渉に配慮
	視聴覚ブース		・複数人で同時視聴できる
	PCブース	データベースや電子書籍、デジタルアーカイブ化した資料の閲覧	
② 児童閲覧スペース	新刊書コーナー		・面出しなど多様な本の見せ方ができる
	企画展示コーナー		
	常設展示コーナー	登別ゆかりの人に関する資料の展示	・ガラスケース
	児童開架書架		・乳幼児の安全に配慮
③ 郷土・参考資料閲覧スペース	おはなし会用スペース	ボランティアによるお話し会を行う	・靴を脱いで上がれる
	郷土・参考資料書架		・温度、湿度の管理
	レファレンスカウンター	貸出、返却、予約、レファレンス・レフェラルサービス、相互貸借	・利用者・職員ともに座って対応できる ・コピー機の設定 ・ロッカーの設定
④ 学習スペース	自習席（自習室）	静寂性の高い個別の自習席	・防音壁で区切られ静謐を確保できる
	グループ学習室	ラーニングコモンズ	・話し合いができる
	多目的室（大）	文化講演会やワークショップに使用	
	多目的室（小）	対面朗読や小グループでの活動に使用	
⑤ 交流・共創スペース	フリースペース	飲食ができ、会話も許容できる空間	
⑥ 図書館活動支援スペース	閉架書架 〔一般書 児童書 郷土・参考資料〕		
	移動図書館車作業室	移動図書館用図書の保管、入れ替え等の作業	
	一般作業室	配本所、団体貸出用図書の保管、本の修繕等の作業	
⑦ 事務管理スペース	図書ボランティア活動室	郷土資料アーカイブ化、朗読資料、点訳資料等の作成	
	事務室		・一般貸出カウンターと隣接
	更衣室		
	休憩室	職員ロッカールーム	

その他【開架冊数について】

限られた面積の中で、どれだけ効率良く書棚を配置できるかが重要だと考えます。すべての蔵書のうち表側に出す図書の割合(開架率)を定め、具体的な冊数を示すことで効果的なゾーニングが可能になるのではないのでしょうか。多角的に検討した結果、開架率を57%(8万冊を上限)にすることを提案します。

その結果に至った理由は下記をご参照ください。

$$\text{開架率} = \text{開架冊数} \div \text{総蔵書冊数} \times 100$$

(1) 全国平均にみる開架率

市区立図書館蔵書冊数 362,894,000 冊…A

うち開架冊数 195,876,000 冊…B

$$B \div A \times 100 = 53.9\%$$

(2) 数値基準※にみる開架率 ※日本図書館協会が全国の自治体を対象に定めた、図書館システム整備の達成目標

登別の人口を 42,300 人とする(R8.3 末 42,315 人)

〈基準の蔵書冊数〉 右の基準値の算出例に倣って冊数を出す

- ① 90,117 冊
- ② $(18,600 - 5,200) \times 5.3 = 71,020$ 冊
- ③ $(42,300 - 18,600) \times 4.7 = 111,390$ 冊
① + ② + ③ = 272,527 冊…A

〈基準の開架冊数〉

- ① 58,654 冊
- ② $(18,600 - 5,200) \times 3 = 40,200$ 冊
- ③ $(42,300 - 18,600) \times 2.73 = 64,701$ 冊
① + ② + ③ = 163,555 冊…B

$$B \div A \times 100 = 60.0\%$$

『日本の図書館 統計と名簿 2025』(日本図書館協会 2026.3 刊行)より抜粋

公共図書館集計 (2025年)					
都道府県立		市区立	町村立	私立	計
4 蔵書冊数 (千冊)					
蔵書冊数	53,938	362,894	53,432	1,714	471,978
うち開架図書冊数		195,876	33,068	294	229,238
					469,399
					230,734

『公立図書館の任務と目標』図書館システム整備のための数値基準 2023 年改訂

(日本図書館協会 2025.2 公表)より抜粋

* 基準値の算出例		2023 年
例えば、人口 50,000 人の自治体の延床面積の場合 「図書館システム整備のための数値基準」の 2023 年延床面積の表を用いる。まず、人口の一番小さな基準の延床面積を見る。 ① 基準の人口 5,200 人未満に必要な面積 → 901 m ² ② 次の基準となる人口の差 (18,600 人 - 5,200 人) に 0.05 をかける → 670 m ² ③ 次の基準の最大が 53,400 人で 50,000 人より多いので、人口差 (50,000 人 - 18,600 人) に 0.07 をかける → 2,198 m ² ① + ② + ③ の和を算出する → 人口 50,000 人の自治体に必要な延床面積、3,769 m ² となる。 式) $901 + ((18,600 - 5,200) \times 0.05) + (50,000 - 18,600) \times 0.07 = 901 + 670 + 2,198 = 3,769$		【延床面積】 人口 5,200 人未満 901 m ² を最低とし、 人口 18,600 人までは 1 人につき 0.05 m ² 53,400 人までは 1 人につき 0.07 m ² 164,700 人までは 1 人につき 0.04 m ² 393,100 人までは 1 人につき 0.02 m ² を加算する。
		【蔵書冊数】 人口 5,200 人未満 90,117 冊 を最低とし、 人口 18,600 人までは 1 人につき 5.3 冊 53,400 人までは 1 人につき 4.7 冊 164,700 人までは 1 人につき 4.3 冊 393,100 人までは 1 人につき 1.8 冊 を加算する。
		【開架冊数】 人口 5,200 人未満 58,654 冊 を最低とし、 人口 18,600 人までは 1 人につき 3 冊 53,400 人までは 1 人につき 2.73 冊 164,700 人までは 1 人につき 2.33 冊 393,100 人までは 1 人につき 1.24 冊 を加算する。

全国平均値と数値基準値の中間にあたる

57%を開架率の目標値にしてはどうか

(3) 登別市立図書館の現状と課題点

『令和7年度 図書館要覧』の蔵書統計をもとに算出

- 本館の総資料数…132,665 点(図書 + 雑誌 + 視聴覚資料)のうち、図書資料は 127,939 冊…A
〈内訳〉
一般書 { (開架)24,307 冊 児童書 { (開架)37,665 冊 ※開架だけの冊数 24,307 + 37,665 = 61,972 冊…B
(閉架)44,911 冊 (閉架)21,056 冊 現在の開架率 $B \div A \times 100 = 48.4$ 約 **48%**

- アーニス分館の総資料数…12,806 点(図書 + 雑誌 + 視聴覚資料)のうち、図書資料は 10,422 冊
〈内訳〉
一般書 { (開架)8,175 冊 児童書 { (開架)2,247 冊
(閉架)0 冊 (閉架)0 冊

- 移転後の総資料数(本館 + アーニス分館)…145,471 点(図書 + 雑誌 + 視聴覚資料)のうち、図書資料は 138,361 冊

〈内訳〉
一般書 77,393 冊
児童書 60,968 冊

開架率を 57%と定めた場合、
開架冊数 $\div 138,361 \times 100 = 57$
開架冊数 = 78,866 冊 **8万冊**を目安にしてはどうか

〈参考〉開架率でみる開架冊数

開架率	冊数
54%	74,715 冊
55%	76,099 冊
56%	77,482 冊
57%	78,866 冊
58%	80,249 冊
59%	81,633 冊
60%	83,017 冊

- 課題点
公立図書館の蔵書全体に占める一般書と児童書の割合は、全国平均で一般書 70～75%、児童書 25～30%といわれています。上記内訳の通り、登別市立図書館では全体の 56%が一般書、44%が児童書という割合です。想定する冊数によって必要となる床面積も変わるため、移転先での一般書と児童書の開架冊数の比率は慎重に考える必要があります。